

「結果の出せる」職業人になるには（Ⅱ）
－我が社、我が街から失業者を一名も出さないために⑤－

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

では「名ばかり」でない「結果の出せる」職業人になるにはどうしたらよいか、というのが今回のテーマだ。つまり、学校を出て、3年間は文字通り「一所懸命」に死にもの狂いでその職業の基本知識や、基本技術を身につければ見た目にはプロのように見える「名ばかり」の職業人になる。ただし、「ブレ」つまり、「ミス」が多くて、十分な結果を出し続けることができない。これがいつも期待されるレベル以上の結果を出し続けることのできる「結果の出せる職業人」になりあがるためには、その後7年間の血のにじむような勉強が必要である。つまり、学校を出たり、資格をとったあと合わせて10年間は、その職業について結果が出せるようになるまで、命掛けの勉強の期間が必要であると、先月号の「みにむ」には、書かせて頂いた。

医師を例にとって書かせて頂いたが、その理由は、医師は最も生命や身体に影響を及ぼす職業であり、その分収入も良いにもかかわらず、資格取得3年後から7年間死にもの狂いで勉強をしている方が余りに少ないと実感しているからである。高額なローンをかかえているため長時間にわたって患者を大量に見ざるをえず、その結果疲れ果ててしまい勉強をする時間がない医師も多いと聞かすが、それなら、余りにも患者と納税者・保険料支払者が気の毒だ。（医師に限らず、歯科医その他の医療関係者、学校の先生をはじめとする教育関係者、国家免許の付与されている職業人には、強くこのことを言いたい。資格の上にあぐらをかくことなく、資格取得後、10年間は、資格を取る直前と同じ熱心さで、結果が出せる職業人になれるようサービスを受ける側に立ちがんばっていただきたい。）

2. 「名ばかりの職業人」になった後、どのように7年間勉強して、「結果を出せる職業人」になったらよいか。

①無理なローンを組まないことが最も大切だ。「清貧」とまではいわないが、とにかく3年くらいでは「名ばかり」でまともな結果は出せないのであるから、3年目位から物資的に「豊かな」生活を実施するためにと過度な借金をして大きな家を建てたり、大きな車を購入したり、高価な物品やサービスを購入することは止めた方がよい。高額な借金、つまり、ローンの返済に追われ、時間だけを張ればよいような単純作業に近いような内容の仕事に朝から晩まで追いまくられ、疲れ果て、ストレスもたまりその結果、全く勉強などする状態ではなくなるからだ。自業自得とはよく言ったものでローンに支えられた「ハデ」な生活をしている人ほど勉強せず、10年後から、没落の運命をたどる。

*では今まで勉強をせずに来てしまった人は、どうしたらよいか。答えは簡単だ。売れるような財産があれば、売り払い、生活も質素にし、毎月のローンの額を大幅に減らした上で、時間的、精神的に「余裕」をもてるようにして、10年分の不足している勉強をスタートして欲しい。それが、あなたの10年後を保証する。

②私は「一点突破、全面展開」という毛沢東のことばが好きだ。自分の職業の中で、自分が最も得意とする分野、最も関心のある分野を深く狭く徹して高めるものが最も望ましい。「長所伸展法」（自分のよいところを更に伸ばす）に徹すること。これなら、いくら勉強しても、あきがこないし、いやにもならない。勉強すればするほど、その分野を通して世の中が見え、世界が広がる。だから、一つの分野だけでもよいから 20 年後 30 年後までに日本最高、世界最高のレベルまで到達するよう志、つまり目標を高く持ち続けることだ。

③「モデル探し」「先生探し」がその次の作業だ。2 ～ 3 年後に追いつきたいモデル・模範となる企業をとりあえず見つけ出し、徹底的に研究すること。A というモデルに 10 の実力があれば、そのモデルに近づきたいと思い努力すれば、自分は今一の実力しかなくとも、8 ～ 9 まではいく。そこまでいったら、こんどは 50 の実力のある B というモデルに乗り換えること。B を目指せば、40 か 45 まではいく。次は、200 の実力のある、C というモデルを目指し 150 までいけばよい。そこまでいったら、1000 の実力のある D というモデルを捜し出し、がんばって追いつき、800 ～ 900 の実力をたくわえること。

＊例えば、私の場合を説明すると、昨年度のピーク時に、開倫塾には 2900 名余りの塾生がいた。15 年前には 100 名足らずであったこの塾がなぜ 2900 名もの生徒をもつようになったのか。100 名のときには 300 名のモデルをもち 200 名になり、200 名のときには 600 名のモデルをもち 500 名になり、500 名の時には 1200 名のモデルをもち 1000 名になり、1000 名のときには 3000 名のモデルをもち現在に至ったのである。今は、7000 名のモデルをもち 5000 名を達成しようと思っている。5000 名に到達したら、12000 名のモデルをもち 10000 名突破を果たそうと思う。モデルは同業者でも、異業者でもよい。これが私のやり方だ。

④「モデル」模範とするものがあらわれたら、徹底的に勉強すること。その人や会社が本や資料を出していたら、すべて買いそろえ、全部読んでしまうこと。セミナーや勉強会を開いていたら、どんどん積極的に出席すること。「おっかけ」をすることだ。本当にその人から話がききたければ、移動中にとりの席に座らせて頂くことが最も効果的だ。その方が、どこか出張に行く時などは最高のチャンスだ。礼を尽くしてお願いし、せめて「行き」か「帰り」の新幹線やロマンスカー、タクシーの中だけでも、たとえ 1 時間や、たとえ 5 分だけでも一緒にいる時間をつくっていただくこと。

＊私など学ぶべき方と一緒にいる、ただその目的のためだけに何十回新幹線に乗ったか判らない。何十回、何百回同じ車に乗せて頂いたかわからない。何百回視察旅行に行ったかわからない。約 10 年前に年に何回も行ってた同業者との海外視察などは、モデル探しと模範となる先生方の一に座らせて頂き、話を聴くためだけに参加したものばかりだ。外の景色など全く興味がなかった。観光など論外であった。観光地にいっても、今聴いたことをメモにまとめ、開倫塾にどのように応用できるか、マニュアルの原稿をつくっていた。端から見れば、随分片寄っているかも知れないが、これも一つの方法だ。

（さすがに、最近は余りこの方法はとらなくなった。少しは観光地に行っても風景を楽しめるようになったが、参考になることを伝え聞けば、観光をストップしてメモにまとめることはしている。人生は長いから、今はふもとの楽しみというか楽しみは後に残してもよいと思っている。全然苦にならない。新しいことを知ることができ楽しくて仕方がないほどだ。）

⑤セミナーや勉強会の会場には開始の1時間前の到着が絶対条件だ。開始一時間前に会場に到着し、その日の勉強会の予習をすること。講師の先生の本があれば、できるだけたくさん開始時間までに読み終え、その先生の考えで頭をフル回転しておくこと。さえわたった講師は本の先を話すので、断然理解が深まる。会場では一番前の席に着席すること。何者も講師と自分との間に入らなければ、たとえ1000名の会場でも講師はあたかも自分一人に語りかけてくれるように感じられ、快い緊張感の中、理解も深まる。主催者に許可をとってテープ録音や写真撮影ができれば最高だ。テープを廻しくり返し同じ話しをきいたり、ノートや資料の中に先生の写真を1枚でもはっておくと、親しみが増し、何回でもノートを開きたくなるからだ。短期記憶を長期記憶にするために、記憶の痕跡をいかに残すかについて、ありとあらゆる創意工夫をすべきと思う。

＊ノートはとるが二度と読み返さないという人は、ノートをとるのは無駄であるから、内容理解に全精力を使うべきだ。私自身、以前は随分ノートをとったが、あるときから、一切ノートをとらなくなった。私の場合、教育や経営の勉強会が多いのだがいくらノートをとって読み返したところで、実際にできることはごくわずかであることがわかったからだ。最近是一个の講演を聴いて一つのことがうっすら判れば十分と割り切っている。そうすると、すごく楽に、また、客観的に先生の話が聴ける。他人のハナシの自分なりの聴き方を、これも創意工夫をこらして開発すべきである。その時々で変わってもよいから、自分なりの「学習方法」(スタディ・スタイル)を確立し、それにみがきをかけていくことを意識的に行うことをおすすめする。

＊セミナーに遅れていたり、早く退席するのは、時間管理ができない証拠で論外である。特定の場所に一定の時間までにたどりつくのは大事な「能力」の一つである。講義中におしゃべりをする人がいるが、これも論外。人の話を静かに「お口にチャック」をして、1時間でも2時間でも身体や口を動かさず聴くのも、大事な「能力」の一つである。「おしゃべり」は自己統制能力のない人である。おしゃべりの人は一日も早くこの能力を身につけなければ学校ではともかく、社会に出ると皆から相手にされない。だから、本当は、学校の先生は、自分の仕事の一つだと思って「おしゃべりをせずに先生の話を聴く能力」を自分の担当するすべての生徒に身につけさせるべきである。

3. おわりに

世界最高賃金と超円高で、職業人に求められているのは、賃金に見合った「結果の出せる仕事内容」である。これは収入の高いといわれる医師や歯科医、弁護士、税理士、公認会計士、司法書士といった国家が免許や資格を与える職業にとどまらず、教師も含む公務員や営利・非営利を問わず民間の会社をはじめとするありとあらゆる職種にもあてはまると思う。

我が街から失業者を一名も出さないための失業対策の第一は、自らが失業者にならないよう職業の知識・技術を高め、必ず一定の結果が出せるまでに10年をかけてノウ・ハウを蓄積することに尽きると確信する。その職業について10年たっても満足な仕事ができない人は、お金や時間の都合をつけて足りない分を10年以内に身につけること。

みんなでがんばりましょう。